

かわさき区の宝物シート

宝物No.

24-2

でいいのせめんとさいろ
デイ・シイのセメントサイロ



写真提供：(株)デイ・シイ

エリア	田島地区	シーズン	通年
	浅野・南渡田	日時	

目的	<input type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input checked="" type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input checked="" type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input checked="" type="checkbox"/> 港めぐり
	<input type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物

所在地	川崎区浅野町1-1
問い合わせ	(株)デイ・シイ
TEL	044-322-5360
FAX	044-322-7935
E-mail	
URL	http://www.dccorp.jp/
交通	JR川崎駅よりバス「浜町2丁目」下車



基礎情報

■大正8～9(1919～1920)年にかけて建築されたセメント保管用大型サイロで、1基あたり2500トンの貯蔵能力を有し、同工場に4基ある。1980年代に全面エアレーション設備を取り付けた。エアレーションとは、サイロの底にキャンバスを張り、圧縮エアを吹き込んで中に貯蔵されているセメントを流動化させ、無駄なく下出口から取り出すための仕組み。すでに90年以上経ているにもかかわらず、強度上全く問題なく、今でも主力サイロの一つとして使用されている。デイ・シイ川崎工場は、大正6(1917)年に浅野セメント川崎工場として操業を開始した。その後、隣接するJFEスチールから発生する高炉スラグ(高炉で鉄鉄をつくる際、鉄鉱石から分離される不純物)を利用したセメント製造法を開発し、昭和16(1941)年に浅野セメントから独立して新会社を設立、その後は長らく第一セメントとして操業し、平成15(2003)年に中央商事と合併して現在のデイ・シイとなった。

由来・エピソード

■(株)デイ・シイ川崎工場は、元々大正6年(1917)5月に浅野セメント(株)川崎工場として操業を開始し、国内セメント工場の中でも有数の長い歴史を誇っている。隣接する日本鋼管(株)(現・JFEスチール(株))から発生する高炉スラグ(製鉄の際に発生する副産物)を利用したセメント製造法を開発し、昭和16年(1941)に浅野セメントから分離独立、浅野セメントと日本鋼管の共同出資のもとに日本高炉セメント(株)として再出発し、昭和24年(1949)2月には新会社 第一セメント(株)が設立され、以降50年余の長きにわたり操業を続けた。平成15年(2003)に中央商事(株)と合併し、骨材からセメント・生コン・コンクリート二次製品まで建設資材を幅広く扱う企業(株)デイ・シイが誕生した。社名は第一セメントの「D」と中央商事の「C」を組み合わせたもの。

■川崎工場は、国内最大の消費地である首都圏に立地する唯一のセメント工場という特色と、高炉スラグ利用に高い技術力とノウハウを有するという強みを持ち、また年々深刻化する環境問題に対しても廃棄物や副産物、建設発生土などの有効活用の拡大を進めている。現在川崎工場からは、セメント、混和材、地盤改良材をはじめ年間約150万トンの製品が生産され、社会基盤の整備に貢献している。

■同セメントサイロには、1980年代に全面エアレーション設備が取り付けられた。サイロの底にキャンバスを張って圧縮エアを吹き込んで中に貯蔵されているセメントを流動化させ、無駄なく下出口から取り出すための仕組みとなっている。

補足・その他

■現在のJR南武線は、当初は砂利輸送を目的に設立された民間鉄道であった。大正9年(1920)御幸村村会議員の秋元喜四郎らが「多摩川砂利鉄道」として鉄道敷設免許を申請。同年「南武鉄道」として会社が設立された。ところが莫大な建設費用や工事の遅れ、金融恐慌など開業当初から経営難に陥り、その窮地を救ったのが浅野セメント(現・太平洋セメント)の創業者浅野総一郎であった。既に青梅鉄道(現・青梅線)を系列化していた浅野セメントは、南武鉄道を傘下とすることでセメント原料の石灰石を奥多摩から川崎の工場まで全て傘下の鉄道で運搬できること、並びに輸送距離の短縮が可能となる。こうして昭和2年(1927)南武鉄道は浅野系列として川崎・登戸間が開通、昭和4年(1929)には川崎・立川間が全通した。当初、貨物は蒸気機関車で牽引された。

■平成10年(1998)、第一セメントが石灰石の調達先を北海道上磯・峯朗鉱山からの船舶輸送に全面的に切り替えたことから、長年にわたり南武線の風物詩として活躍していた「石灰石列車」は廃止された。

関連シート

(22-3)南武線(支線)